

## 授業を振り返って①<小学校> 「怒りについて考えよう」

### 視点Ⅰ 本時のねらいを達成できたか

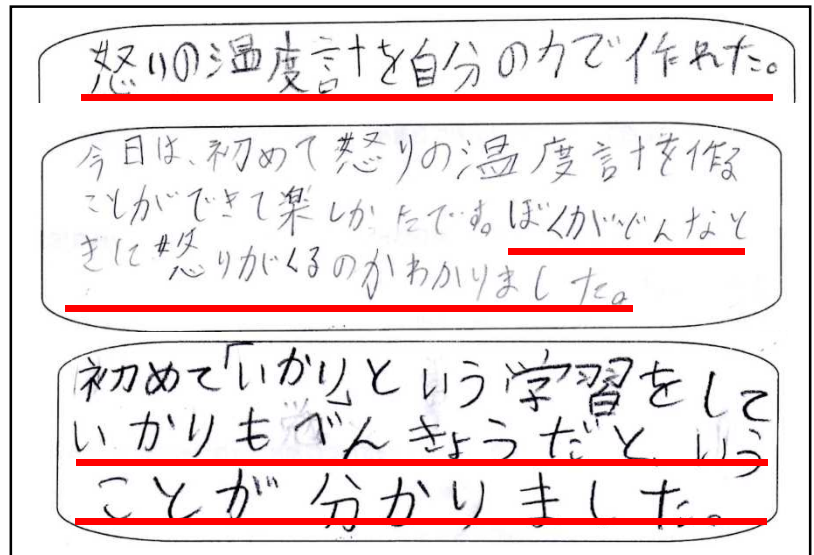
#### 1 自分の怒りの感じ方の理解について

- 振り返りシートの「自分の怒りの温度計を作ることができましたか」の質問に対して「できた」と「だいたいできた」と回答した児童の合計は100%で、全員が自分の怒りの感じ方を温度計を例にして、数値化することができました(資料1)。



資料1 「怒りの温度計」のアンケート結果  
(振り返りシートより)

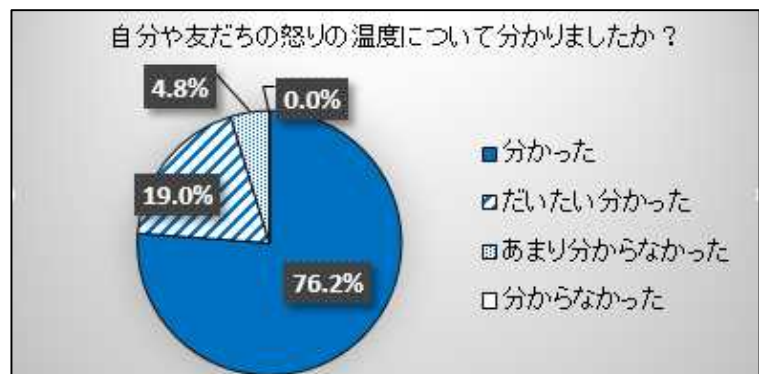
- 「怒りの温度計」を記入する際は、記入の仕方について例題を用いて学級全体で詳しく説明したことにより児童が活動内容を正確に理解することができました。また、提示された6つの場面について自分の怒りを温度計に表すことで、自分の怒りについての理解を深めることができました(資料2)。



資料2 「怒りの温度計」に関する児童の感想  
(振り返りシートより)

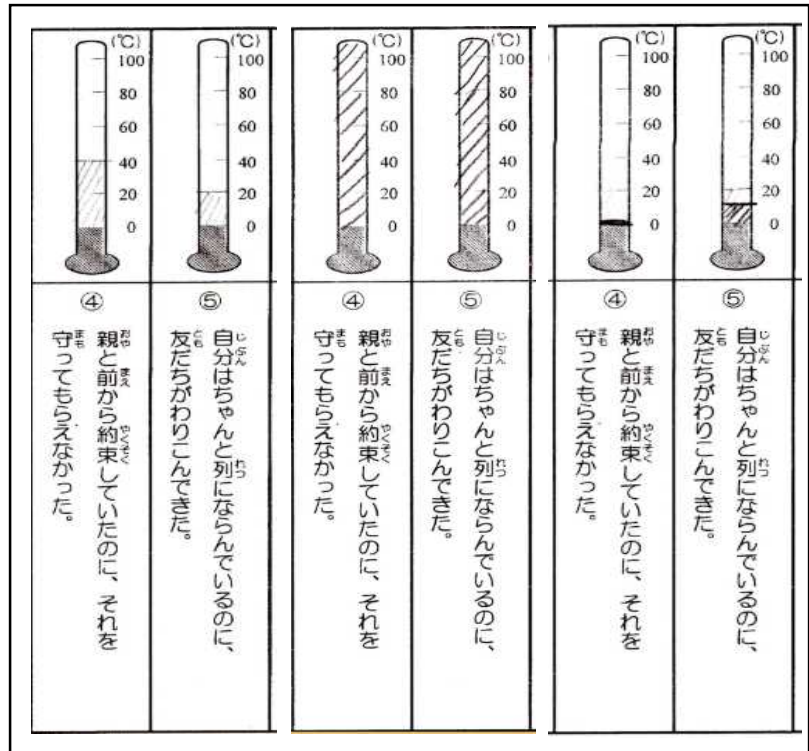
#### 2 自分と友達の怒りの感じ方の理解について

- 振り返りシートの「自分や友達の怒りの温度について分かりましたか」の質問に対して「分かった」と「だいたい分かった」と回答した児童の合計は95.2%で、怒りの感じ方が人によって違うことに気づき、怒りの感じ方についての理解を深めることができました(資料3)。



資料3 友達との比較のアンケート結果(振り返りシートより)

- それぞれで記入した「怒りの温度計」を、班の友達と比較しました(資料4)。ワークシートを指差しながら同じ場面の温度の違いを見比べる様子が見られ、温度が違う場面についてはその理由を説明して違いを確認していました。同じ場面でも、どの程度怒りを感じるのかは人それぞれ違うことに気付くことができました。



資料4 「怒りの温度計」の比較

- ④の場面では、約束をしていたとしても、親に事情があって約束を守ってもらうことができなかった場合には怒りが湧かないという児童もあり、その場面の状況を見童がどう捉えるかということも温度の差に表れたと考えます(資料5)。また、それぞれの場面での怒りの温度を友達と比べることで自分の怒りの感じ方に気付くことができ、自己理解を深めることができました(資料6)。

④④の温度は友達とくらべて全然ちがうんだなと思いました。友達のいかりは100℃や80℃でした。私は60℃や40℃なので友達のいかりがどんなふうにあるか、わかりませんでした。あんまり自分と友達じゃとてもちがう差がある感じがしました。1は同じだたりちがったりいろいろ温度がバラバラなんだと思いました。高かったのもありました。

資料5 ④の温度に関する児童の気付き  
(振り返りシートより)

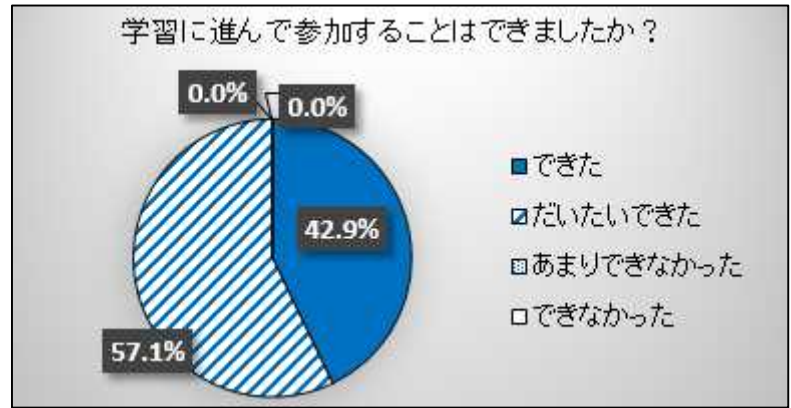
自分がどんな時にいかりが上がるのかを知れたのでよかったです。人と一つか二つは同じ所があったけれど、ちがう戸能二つくらいは、ありました。

怒りについて考え、自分の怒りや友達の怒りかよく知れました。人それぞれだと思いましたが、同じところもあつたけどちがうところもありました。

資料6 「怒りの温度計」を友達と比較した児童の気付き

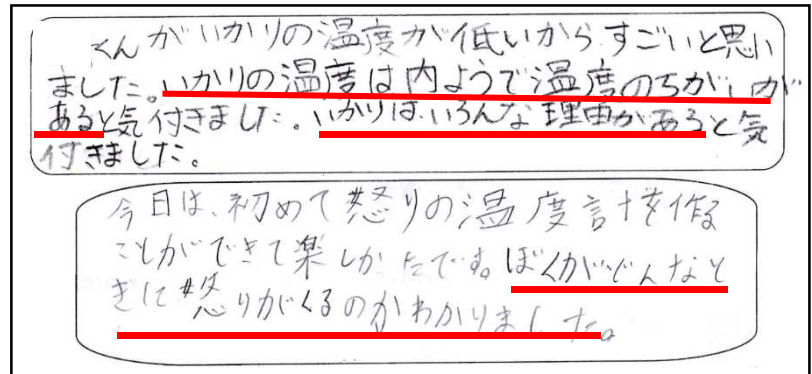
## 視点Ⅱ 次時につながる内容であったか

- 振り返りシートの「学習に進んで参加することはできましたか」の質問に対して「できた」「だいたいできた」と回答した児童の合計は100%で、児童が学習に対して意欲的に取り組んだことが分かりました(資料7)。



資料7 学習への参加状況についてのアンケート結果  
(振り返りシートより)

- 授業全体を通して、児童は、怒りという感情を誰でももっていることや怒りの感じ方が人それぞれ違うことなどを理解することができたと考えます。怒りの温度を友達と比べる際も、数値化されたことでワークシートを見せ合いながら交流することができ、怒りの感じ方が人によって違うことや似た感じ方をする場面があることに児童が気付くことができたと考えます。怒りを温度計で表すことで視覚化するという学習は、次時の「怒りと上手に付き合おう」につながる活動となったと考えます(資料8)。



資料8 学習への参加状況についてのアンケート結果